

半世紀を超え 朝日高精神育む

完成から58年 我々が 大講堂

耐震強度不足により昨秋から原則、使用禁止となっている大講堂は戦後の学校復興のシンボルとして同窓会、PTA一致協力の下、巨費を投じて建設された。今日まで58年にわたって自主自律、自重互敬の朝日高精神を育んできたかけがえのない伝統空間の過去と今を写真で紹介する。その魂を未来へとつなぐために！。



大講堂完成時の学校風景



旧制服の女生徒ら



完成時の外観



天井裏の鉄骨・木組み



竣工前に演劇部の文化祭公演でこけら落とし
(昭和29年11月6、7日)



人力に負う杭打ち工事



大講堂初の卒業式(昭和30年3月)



後方の応援生徒が立つのが建設中の基礎
(第1回朝操戦)バスケットボール(昭和29年6月5日)

大講堂の落成式は昭和29年11月21日、創立80周年記念式に合わせ挙行され、校歌も制定された。当時、祝辞依頼文に「収容力に於いて又設備に於て県下第一の講堂を有するに至りました」と誇らしげに記されている。

戦後の学制改革を経て24年に発足した新生・朝日高。現在地の国富校舎(旧制六高跡)への全校移転が完了する2カ月前の28年6月、「創立80周年記念館」建設を検討する同窓会理事会が開かれた。東書庫、西書庫に接続して1、2階吹き抜けの集会場(160席)とクラブ室(1階) 図書閲覧室(2階)などを備えた先進的なプランで、ゆかりの書画、著作物、原稿展示も想定されていた。

だが国、県から戦災復旧費として計570万円が交付されることになったため、学校側の講堂建設の要望に応じて同窓会が方針転換。PTAと一体となって発足させた建設委員会が募金活動を展開して29年3月着工、11月18日に完成した。完成を記念して講堂エントランスホールや教室に在校生と卒業生の作品を集めた「創立80周年記念朝日美術展(11月21、23日)」が開催され、その後卒業生から寄贈されたものが今も学校が所蔵する一級の美術品の核をなしている。

完成時、2階中央に立派な映写室を備えていたが10年以内に撤去され、固定の長いす席に変わっている。全面板張りだった1階の床は体育館機能を持たせるため、36年に前と後ろに段差をつけて床の傾斜を緩くし、その後コンクリート床のビニールタイル張に改修された。1階の生徒用長いすは49年の創立100周年記念式を機に撤去され、以後、行事の際はパイプイス使用となった。平成9年、演劇部練習中にステージ上部で照明器具による小火があり緞帳が新調された。